

一三八二番

泊瀬川はつせがは 流る水沫なが みなわの 絶たえばこそ 我あが思おもふ心こころ  
遂とげじと思おもはめ

一三八三番

嘆なげきせば 人ひと知りぬべみ 山やま川がはの 激たきつ心こころを 塞せ  
かへてあるかも

一三八四番

水み隠こもりに 息いきづき余あまり 速はや川かはの 瀬せには立たつとも  
人ひとに言いはめやも

一三八五番

ま鉋かなも持ち 弓ゆげ削けの川かはら原はらの 埋うもれ木ぎの 頭あらはるまし  
じき ことにならなくに